5

課題番号	研究課題名	研究代表者	評価結果
17100005	大脳皮質介在ニューロンの移動・配置と領野特異性の形成	村上 富士夫 (大阪大学・大学院生命機能研究科・教授)	A+
<p>(意見等)</p> <p>本研究は、大脳皮質における抑制性の GABA 作動性介在ニューロンの移動メカニズムについて、独自に開発した方法論を用いて明らかにすることが目的である。</p> <p>現時点において、研究は概ね順調に進み、国際的な雑誌への掲載も行われており、一定の成果も上げつつある。一部、大きな研究計画の変更も見られるが、方法論的なものであり、目的遂行に対しての本質的な変更ではないと判断される。なお、研究経費の使用も適切に行われている。</p> <p>今後、遺伝子のスクリーニングによって複数の候補遺伝子が得られると期待されるが、<i>in vivo</i> イメージングをいかに効率よく行うかが課題である。</p> <p>総合的に現行のまま研究を推進し、更なる成果を期待したい。</p>			

6

課題番号	研究課題名	研究代表者	評価結果
17100006	磁気的手法によるバイオイメージングと脳機能ダイナミックスの研究	上野 照剛 (九州大学・大学院工学研究院・特任教授)	A
<p>(意見等)</p> <p>本研究は、神経活動に由来する微弱電流を MRI を用いて検出するための理論的実験と動物実験を行い、磁場検出の可能性と有用性を実証するものである。MRI を用いた神経活動電流のイメージングは優れた時間分析能と空間分析能を併せもつ手法であり、脳機能研究や脳疾患診断の広い領域で応用可能である。なお、研究成果は原著論文として活発に発表されている。</p> <p>本計測法および脳磁気刺激法は、本研究グループのオリジナリティの高い分野であり、得られた結果は、脳機能のダイナミックスという新しい情報・知見を含み、脳機能研究や診断に大きな波及効果が期待できる。</p> <p>今後、細胞レベルにおける磁気刺激の影響の観察も予定しているが、マクロとミクロのリンケージのために必要な観察であろう。</p>			